



Environmental  
Investigation Agency  
P.O. BOX 53343  
Washington DC, 20009

TEL +1 202 483 6621  
FAX +1 202 986 8626  
www.eia-global.org  
Twitter@EIAEnvironment  
Facebook/Environmental  
InvestigationAgencyDC



## 中国からの調達で違法木材を避けるには： 木材製品を購入する日本企業への 念入りな確認（DD）実施の提言

EIAの新しい調査によれば、日本の会社が、中国の違法伐採による木材製品の調達を防ぐためのデューデリジェンス（DD）を行っていないことがわかった。DDは、欧州や米国、オーストラリアでは、国際的なサプライチェーンでの違法木材の流通を避ける措置として法的に規定されるほど重要とされるツールとなっている。2016年初めに、EIAは中国の家具や木材製品の供給業者4社に対して覆面調査を行い、そのうち3社は日本のバイヤーがこれまで原材料調達の合法性について尋ねられたことは一度もないと回答している。残りの1社は、日本国内でのロシアの違法伐採の報道を受けて、伊藤忠と双日がロシア産マツの合法伐採を証明する書類を求めてきたと回答している。これらの事例から、中国に対してDDを実施することは可能だが、日本の法の下ではまだ企業への義務づけがないため、必ずしもDD実施は当たり前のこととなっていないということが示唆された。

### ロシアの広葉樹材が中国から日本へ - サプライチェーンのリスクと現在の商習慣

2016年から遡って十年近く前から多くの新聞やNGOは、ロシアで広範囲に違法伐採が行われており、ロシア産のマツ材、ナラ材およびタモ材が大量に中国北東部に流入していることを報告してきた。<sup>1</sup> 2013年と2014年にEIAは中国の企業がロシアで違法木材を調達している具体的な事例を記録した報告書を発表した。これらの企業は、違法と知りながら、この木材を中国に持ち込み、最終製品に加工し、それを米国と日本向けに販売していた。

シベリアとロシア極東を含むロシア東部で産出される木材の多ければ80%が違法に伐採されているとEIAは推定する。<sup>2</sup> ロシア東部から輸出される木材の3分の2以

上は中国向けであり、中国で複数の商社や製材所の間で売買されてから家具、パネル、集成材などに加工され、国内で消費されるか輸出されている。<sup>3</sup> 2015年に25億米ドル相当の家具及び木材製品が中国から日本に輸入された。<sup>4</sup>

中国北東部の大連市は、ナラ、タモ、ニレ、カバノキ、マツなどの木材製品の生産拠点となっている。これらの温帯樹種は、北米、欧州、チリ、ニュージーランドを含め世界中から調達されているが、現在もロシアが最大の供給国となっている。中国が北東部で新しく木材伐採禁止令を施行しているため、2015年以来、中国の国産材の供給は減少している。<sup>5</sup>



### 違法伐採

違法伐採とは？

» 適用法令に違反して伐採・取引された木材

どうして重要なのか？

» 違法伐採は森林の劣化を招き、気候変動や生物多様性喪失の原因であり、森林に依存するコミュニティの生活を脅かしている。さらに、責任あるビジネスに取り組む企業の利益や100億米ドルに及ぶ政府の税収を奪うことで経済発展を阻害している

20-50%

インターポールは木材市場の20~50%が違法木材だと推定している<sup>13</sup>

## 中国サプライヤーから日本へ、4つの新しい事例

2016年の初め、バイヤーになりすましたEIAの潜入調査員は、いずれも日本を主な輸出先とする中国大連市の家具・木材製品業者4社を訪問した。<sup>6</sup> EIAの目的は、これらの企業の顧客である日本企業のバイヤーがロシア産違法木材に由来する製品を買わないようにするために、どの程度、努力をしているかを理解することであった。そのうち一例で中国人マネージャーは一部の日本人バイヤーから証拠書類を求められていると答えた。それは両社とも責任ある調達方針を日本のNGOと相談しながら策定し、実施し始めている伊藤忠と双日のバイヤーである。しかし、4例中3例で中国企業のマネージャーは、日本のバイヤーから原材料の由来の合法性について質問されたことはないと答えた。

これらの新しい事例は、単に日本のバイヤーが中国のサプライヤーに対して合法木材の供給を要求していないため、合法かどうか疑わしいロシア産木材が依然として日本市場に流入し続けているという憂慮すべき事実を明らかにしている。4つの事例のいずれにおいても、中国の企業は、日本のバイヤーが非常に厳しい管理を行い、品質、化学薬品の使用、労働者の状況に関して厳格な基準を遵守するよう求めているとEIAに伝えた。日本向けに輸出を行う中国のメーカーは、利益の多い日本市場にアクセスするためには、他国より厳しいこれらの諸条件を受け入れている。いずれの事例でも、中国のサプライヤーは、5~15年ほどの長期にわたってその主要な日本の顧客企業に販売し続けてきたと主張した。

しかし、ほとんどの場合、サプライヤーが大量のロシア産木材を使用していると豪語していても、日本のバイヤーは合法的に調達された原材料を要求することはないという。伊藤忠や双日のようにバイヤーが原産地に関する書類を要求すれば、中国のサプライヤーは、重要な買い手を失わずに済むよう対応するだろう。伊藤忠と双日が書類を要求する以外にデューデリジェンスのための追加措置を取っていたかどうかEIAは把握

できていないが、これは重要な第一歩である。

### H社

H社は、ロシア産木材だけを使って日本および中国国内市場向けに無垢材の木材家具を製造する中規模の工場である。同社はロシア極東に自ら保有する森林コンセッションからナラ、タモ、ニレおよびカバノキの広葉樹材を調達している。これらの丸太をロシアにある自社の製材所で挽いて板材を中国国境の向こうまで運んでいる。H社は中国国内のロシア国境沿いで大きな工場を運営しており、そこで板材を乾燥させている。その一部は、自社での製造のために活用し、残りは他の中国企業に販売している。H社はマツ材もシベリアから輸入しているが、長年、サプライヤー1社だけからそれを安定的に供給されている。

H社は、その生産高の半分ほどを日本向けに、永江という大手の流通業者にだけ輸出している。H社によれば、日本の顧客は、品質に大変厳しいほか、労働条件など他のことにもこだわるという。しかし、永江は、原材料に関する書類、例えば産地証明書や植物検疫証明書さえ要求したこともないという。H社は、ロシアの供給元から書類を得ることもできるが、日本の顧客のために必要としたことがなかったため、工場にはそのような書類を置いていないとEIAに語った。

### Y社

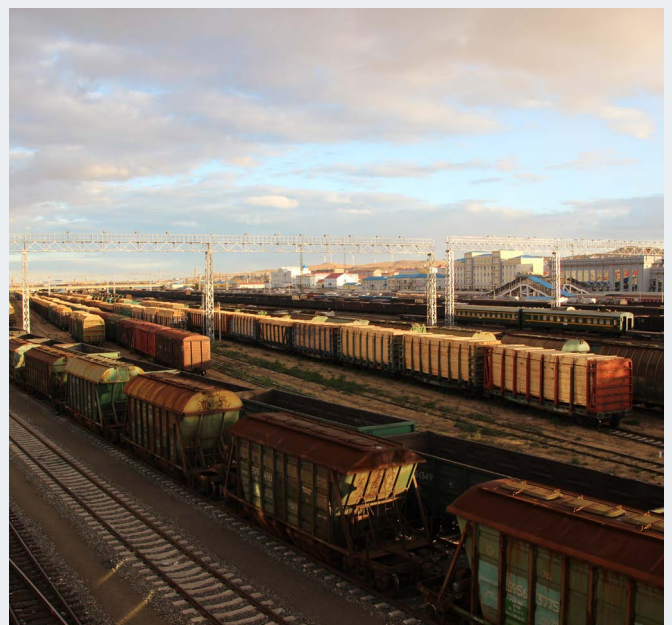
CY社は日本向けに合成木材の家具を販売する中国の家具工場である。同社のマネージャーは、ニトリがその最大の顧客であるとEIAに語り、EIAは工場でニトリの製品や包装材を見かけた。Y社は、ナラ、タモ、マツを含め主にロシア産木材を活用する。ロシア極東の沿海地方に良好な関係を有する中国人の友人がおり、ほとんどの木材をその人から調達しているという。

中国の税関のデータから同社が2014年に3万点以上の家具を日本向けに販売したことがわかった。

同社のマネージャーは、ニトリや他の日本企業のバイヤーから商品の合法性について質問されたことはない

## EIAの2014年のレポート『門戸開放』

ロシアから中国には毎年1,800万立方メートルの木材が輸出されており、そのうちの半分以上が違法である。EIAが2014年に発表したレポート『門戸開放』では、ロシア・シベリア産のアカマツが中国を介して日本まで取引される流通の流れを取り上げている。<sup>7</sup> ロシア材を原料とする最大手のある中国企業が、違法伐採業者から購入した木材をロンダリングするための書類を整えるために、シベリアの古い森林伐採権を利用している様子が語られている。その用に調達された原料は中国・大連にある工場で集成板になり、日本に輸出されている。







Photos: Nitori bed seen at Company P and on the internet as retail.



とEIAに語った。

### S社

S社は中国最大の木質ドアのメーカーのひとつである。同社は日本を含め、世界中に輸出している。日本の主要な顧客として、日本の商社の伊藤忠と双日、流通業者の永江の名前を挙げた。S社は毎月、約90コンテナ相当の木質ドアを出荷していると語った。

S社は北米、欧州、シベリアを含め世界中からの木材を使用している。最近、ロシアで違法伐採が起きていることが報告されているため、日本の一部のバイヤーが、ロシアからの輸入マツ材の合法性を証明する伐採許可証などのロシア政府発行の書類を要求するようになったとS社のオーナーはEIAに語った。しかし、日本のバイヤーがロシア産マツ材に関して書類以外の資料も要求したとは言わなかった。

### P社

P社は、タモとニレの単板を用いた合成木材家具を製造し、そのほぼすべてを日本向けに販売する中規模の家具工場である。同社は顧客企業として、ニトリ、関家具、グランツの名前を挙げた。中国では国産材の伐採が禁止されているにもかかわらず、P社は中国北東部の自治体レベルの人工林からタモ材、ニレ材およびクルミ材を調達し続けている。これらの人工林には、省レベルの森林と違い、2018年までは伐採禁止令が適用されないとP社のオーナーはEIAに語った。一部の家具の生産のためにロシアからマツ材も調達しているとオーナーは付け加えた。

オーナーは、10年以上にわたり、日本の同じ3社のバイヤーと取引してきたとEIAに語った。いずれも、生産の品質および塗料や接着剤に含まれる化学薬品に関しては大変、厳しいが、日本のどのバイヤーからも木材の合法性に関する資料を求められたことはなかったという。

## デューデリジェンスの基本となる要素

### 1. 情報収集<sup>9</sup>

- » サプライチェーンのリスクの程度を知るため情報・書類を収集する；
- » サプライチェーン全体を通じて追跡できる書類；
- » 汚職・腐敗リスクの高い国では偽造書類がふれている；
- » 第三者機関や地域または国際的な市民社会組織、メディア、政府役人に相談しながら、森林伐採や関連法令の違反の程度を評価する；

### 2. リスクの特定

- » 入手した情報の内容を評価し、「赤信号」ないかどうかを見る。赤信号とは、汚職・腐敗度が高いかどうか、不審なほど価格の安いかどうか、書類の食い違いがないかどうか、サプライヤーの過去に違反行為や不審な活動を示すような報告がなかったかどうか等；
- » 1)森林管理、2)貿易・搬送、3)加工・流通、それぞれの段階のリスクを考慮する；

### 3. リスクの緩和

- » もしなんらかのリスクが特定された場合、象となるサプライヤーからの製品を調達する前に対応をとらなければならない；
- » リスクの程度によって、新たなサプライヤーを探す、時限ある枠組みでサプライヤーの行動改善のために取組み、認証材の調達を検討する、法令順守を確認する監査を実施するなどのオプションがありうる。

## CHINA EXPORTS TO JAPAN OF WOOD FURNITURE AND WOOD PRODUCTS

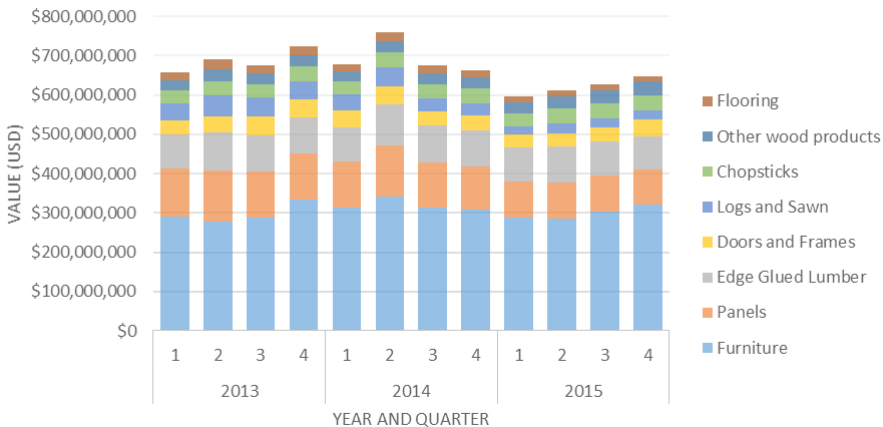


表1 - 中国から日本への木材製品の輸出量。全製品部門には、ほとんどロシア材が含まれている。(出典元: グローバルトレードアトラスの中国関税データ)



### 中国からの調達のリスク

- » 中国は世界で有数の原木輸入国でその中には違法木材が含まれる
- » 中国は違法木材の「ブラックボックス」。国内の木材市場には、数千に及ぶ輸入業者、製材・合板工場、パネル・家具製造業者が存在するため、製品の加工度が上がれば上がるほどサプライチェーンは複雑になる
- » 中国は違法木材の輸入に関する規制はほとんど行っておらず、中国国内のトレーサビリティを確認するのはとても難しい
- » 中国には3,800社に及ぶFSCのCOC認証取得者がいる。<sup>8</sup> しかし、これらの業者が販売するすべての製品が認証材とは限らない

## EIAの2013年のレポート『森の収奪』

2013年、EIAはレポートを発表し、米国の最大手の広葉樹販売業者がロシア極東のアムールトラが生息する森林から違法に伐採されたナラを原料とした床材を販売していたことを明らかにした。<sup>10</sup> 同レポートでEIAは、同社にナラの無垢の床材を供給している主要サプライヤーである中国企業の興佳グループ社が、合法性を示す十分な証拠に欠けることを知りながら、伐採コンセッションで許可されている量を超えた伐採をしていたり、伐採許可のない森から盗伐したり、小規模輸出業者から購入したりしていることの証拠を示している。

EIAはこの調査結果を米国当局と共有し、当局はランバー・リクイデーター社(LL社)をレイシー法違反で起訴した。2015年に同社は司法取引に署名し、レゴットイシー法違反を認め、1,300万米ドルの罰金の支払いに応じた。<sup>11</sup> 司法取引の一部として、LL社は、厳格な遵守計画の実施を5年間にわたり行うことを受け入れている。<sup>12</sup>



## References

1. See for instance, EIA 2013. Liquidating the Forests: Hardwood Flooring, Organized Crime, and the World's Last Siberian Tigers. <http://eia-global.org/campaigns/forests-campaign/liquidating-the-forests/>; WWF 2013. Illegal Logging in the Russian Far East: Global Demand and Taiga Destruction. <http://www.worldwildlife.org/publications/illegal-logging-in-the-russian-far-east-global-demand-and-taiga-destruction> 2. EIA 2013. Liquidating the Forests: Hardwood Flooring, Organized Crime, and the World's Last Siberian Tigers. <http://eia-global.org/campaigns/forests-campaign/liquidating-the-forests/> 3. Russian export data, 2013. 4. Chinese customs data, 2015. Obtained from the Global Trade Atlas. 5. Forest Trends, 2016. China's Logging Ban Impacts Not Just Its Own Forestry Industry, but Others around the World as Well. <http://forest-trends.org/blog/2016/03/14/chinas-logging-ban/> 6. Unless otherwise noted, the sources for this report are EIA's internal investigative reports, photos, and audio and video evidence collected between 2011 and 2016. 7. EIA. 2014. The Open Door: Japan's Continuing Failure to Prevent Imports of Illegal Russian Timber. <http://eia-global.org/news-media/the-open-door-japans-continuing-failure-to-prevent-imports-of-illegal-russian-timber> 8. <https://ic.fsc.org/preview.2015-fsc-market-info-pack.a-5067.pdf> 9. For more details, see also: <http://ec.europa.eu/environment/forests/pdf/Basic%20minimum%20description%20of%20a%20DDS.pdf>, <http://www.nepcon.net/sites/default/files/library/Get-to-grips-EUTR.pdf> 10. EIA 2013. Liquidating the Forests: Hardwood Flooring, Organized Crime, and the World's Last Siberian Tigers. <http://eia-global.org/campaigns/forests-campaign/liquidating-the-forests/> 11. US Department of Justice, Feb. 1 2016. Lumber Liquidators Inc. Sentenced for Illegal Importation of Hardwood and Related Environmental Crimes. <https://www.justice.gov/opa/pr/lumber-liquidators-inc-sentenced-illegal-importation-hardwood-and-related-environmental> 12. [https://www.sec.gov/Archives/edgar/data/1396033/000114420415058462/v421764\\_ex10-1.htm](https://www.sec.gov/Archives/edgar/data/1396033/000114420415058462/v421764_ex10-1.htm) 13. [http://www.unep.org/pdf/RRALogging\\_english\\_scr.pdf](http://www.unep.org/pdf/RRALogging_english_scr.pdf)



For more information visit:  
<http://eia-global.org/>

This document is for informational purposes only. For more information, contact  
[info@eia-global.org](mailto:info@eia-global.org)